

第52回全国酪農青年女性酪農発表大会 ～高木大輔氏農林水産大臣賞受賞～

第52回全国酪農青年女性酪農発表大会が、7月17日～18日に2日間の日程で、ホテルグランヴィア岡山（岡山県岡山市）で開催され、経営発表の部に九州代表として高木大輔氏（玉名酪農協）が出席されました。

会場には、約450名の酪農家や酪農関係者が来場し、合計11名（経営発表6名、意見体験5名）の発表が行われました。



高木大輔氏

九州代表として発表された高木大輔氏は、北海道で2年、海外で2年の合計4年間の実習を経て就農。牧場の経営理念を基にしたコスト削減の取り組みを中心に発表されました。中でも自給飼料の基盤充実を図るだけでなく、足りない部分はエコフィードを活用して低コストを実現している点について、審査員の方々からも高評価を頂きました。

発表の結果、低コストと牛への負荷軽減を方針の二本柱で「とりあえずやってみる」を実践し、繁殖管理や飼料設計等の様々な工夫が生産性、収益性、財務の健全性、いずれの指標でも高い成績を実現できていると評価され、経営の部において最優秀賞ならびに農林水産大臣賞を受賞されました。

また、意見・体験発表の部の最優秀賞については、アニマルウェルフェアという考え方に感銘を

受けて、牛に対するご自身の考え方の変化や牛を幸せにするための牧場での取り組み事項について発表された東北酪農青年女性会議代表の椎谷美保氏（福島県）が受賞されました。



表彰風景

大会当日には、懇親会が催され全国の酪友が交流を深めました。また、翌日には（一社）ヨグネット代表理事でヨーグルトマニアの向井智香氏の記念講演があるなど、大いに盛り上がる内容となりました。

来年の発表大会は沖縄県にて開催予定となっております。詳細が決まり次第、随時皆様へ情報提供をいたしますので、ぜひ来年ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。



発表者集合写真

熊本県酪農政治連盟 第61回通常大会



隈部 委員長

熊本県酪農政治連盟の第61回通常大会（総会）が7月23日（水）、熊本ホテルキャスルで開催されました。

当日は通常大会前に全体委員会が開催され、農林水産省畜産局牛乳乳製品課牛乳乳製品需給対策室長の中坪康史氏から「酪農をめぐる情勢」と題しご講演いただきました。講演では、新しい酪肉近の概要を中心に、生乳需給の安定に向けた内容の説明があり、酪農の生産拡大・経営安定のためには、特に牛乳の需要を高める必要があると述べられました。

通常大会では、隈部洋委員長が昨年の政治活動報告とともに、最近の酪農情勢、先日の参議院議員選挙および昨年の衆議院議員選挙支援や酪農に対する行政施策へのお礼を述べ、「8月から飲用乳価が上がる。酪農経営に少しずつ光が見えてきた。まだ厳しい状況ではあるが、今後も酪農経営の安定に向けた施策実現のため、熊本県酪政連として一致団結して国・県に対し活動を展開していく。世界に目を向けると、人材不足や環境問題等、課題は日本と同じ。将来的にアジア地域の需要が増すことに伴う需給ギャップが見込まれ、世界的な生乳不足が懸念され国内の生乳生産が非常に大事になってくると挨拶されました。続く来賓祝辞では、自民党熊本県連会長で熊本県議会自民党酪政会の前川収会長が選挙に対する支援へのお礼を述べ、「皆様もご存じの通り、先日の選挙は全国的に厳しい結果となった。政治が漂流しないよう、安定した政権運営のために努力しなければならない。我々は、できないことは言わない、言ったことはきちんとやり遂げる、そういう政治であるべきだと思っている。まずは、熊本県連としてこれまで通り、酪政連の皆様と意見交換を緻密に行いながら、TSMCの問題も含めきちんと対応していくことをお約束させていただく」と挨拶されました。

また、日本酪農政治連盟の柴田輝男委員長からは「酪農家は全国に仲間がいる。この仲間を大事にしたい。戸数が減少し、酪農情勢は大変厳しくなっている。日本酪政連は、仲間が困っている課題を挙げていただき、それを解決するための組織だと思っている。国会議員の先生方に強く要請し、



前川 自民党県連会長



柴田 日本酪政連委員長



議長：宮本 委員



講師：中坪 室長

課題を解決させたい。私は人材不足が一番の課題と考えており、ヘルパー問題をすぐに解決させたいが、一つ一つ実行し、仲間の要望に応えていきたい。」と挨拶がありました。

その後の議事では、玉名酪農業協同組合の宮本晴喜委員を議長に選任し、令和6年度運動報告並びに収支決算承認の件、令和7年度運動方針並びに収支予算（案）承認の件、令和7年度会費の賦課並びに徴収方法決定の件、および役員選任の件の四議案すべて原案通り承認されました。

熊本県酪農政治連盟役員名簿

役職名	地 域	氏 名	所 属 組 合
委員長	組織代表	隈 部 洋	県酪連代表
副委員長	阿 蘇	山 田 政 晴	西阿蘇酪農業協同組合
副委員長	鹿 本	若 杉 俊 英	鹿本酪農業協同組合
幹 事 長	菊 池	衛 藤 彰 一	熊本酪農業協同組合
会計責任者	菊 池	岩 根 正 始	菊池地域酪農業協同組合（旭志）
常任委員	熊 本	安 武 英 之	火の国酪農業協同組合
常任委員	宇 城	成 松 暁 史	熊本宇城酪農業協同組合（下北）
常任委員	宇 城	川 田 健 一	熊本宇城酪農業協同組合（松橋）
常任委員	荒 玉	進 尾 亮 介	火の国酪農業協同組合
常任委員	鹿 本	緒 方 敦	鹿本酪農業協同組合
常任委員	菊 池	稲 田 眞太郎	熊本酪農業協同組合
常任委員	菊 池	三 池 敏	菊池地域酪農業協同組合（大津）
常任委員	菊 池	山 下 紘一郎	菊池地域酪農業協同組合（七城）
常任委員	上 益 城	中 村 明	上益城酪農業協同組合（甲佐）
常任委員	八 代	吉 村 正 光	八代地域酪農業協同組合
常任委員	球磨・芦北	西 村 誠 之	球磨酪農業協同組合
常任委員	球磨・芦北	岩 見 誠 也	ホワイ酪酪農業協同組合
常任委員	天 草	水 野 幸 也	大矢野地方酪農業協同組合
常任委員	組織代表	中 村 俊 介	青壮年部代表
常任委員	組織代表	内ヶ島 美津代	女性部代表
代表監事	球磨・芦北	田 中 修 次	菊池地域酪農業協同組合（泗水）
監 事	熊 本	坂 本 保 男	熊本乳牛酪農業協同組合
監 事	球磨・芦北	宮 原 千 明	ホワイ酪酪農業協同組合

熊本県乳用牛群検定組合第24回通常総会開催

去る令和7年7月4日（金）KKRホテル熊本で、熊本県乳用牛群検定組合第24回通常総会が開催されました。

総会に先立ち、令和6年度の検定成績及び体細胞の年間成績の表彰が行われました。

組合長挨拶では、山口組合長から今後の酪農情勢や、補助事業を用いたゲノム情報の活用例などの話がありました。

続いて来賓挨拶として、らくのうマザーズの小池常務と熊本県農林水産部生産経営局畜産課の下西審議員よりご祝辞を賜りました。

通常総会では、議長に齋藤幸氏（熊本宇城農協）が選出され、令和6年度事業報告及び収支決算承認の件について、令和7年度事業計画及び収支予算（案）承認の件について、会費及び頭数割り料金・負担金等徴収（案）



山口組合長



齋藤議長



総会風景

についての全3議案が審議され、原案通り承認されました。

総会閉会後には記念講演として、上松瑞穂氏（宮崎県農業共済組合）を講師に迎え、「暑熱対策について～ヒートストレスが乳牛に及ぼす影響と氷水給与の効果～」と題してご講演いただきました。



記念講演 上松瑞穂氏

た。THI指数、水槽内温度、胃内温度の関係性を示し、きれいな氷水を与えることで牛を内側から冷やし、死亡廃用事故の減少や乳量増加が見込める等の話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

1. 牛群検定成績の部

順位	年間成績	
1位	株洞田貫牧場	（大阿蘇酪農協）
2位	本田 真人	（JA菊池旭志）
3位	梁池 仁嘉	（JA菊池泗水）

2. 体細胞の部

順位	年間成績	
1位	林田 敏之	（球磨酪農協）
2位	山下 誠也	（JA菊池泗水）
3位	石井 幹京	（球磨酪農協）

〔検定加入状況〕令和7年3月末現在

農家戸数：305戸（前年比94.7%）

頭数：22,831頭（前年比97.2%）

A T検定農家戸数：151戸（前年より9戸切り替え）

第49回熊本県乳牛改良同志会通常総会開催



西本会長



金子議長

去る、令和7年7月10日（木）、ホテルメルパルク熊本で熊本県乳牛改良同志会西本道靖会長の第49回通常総会が開催されました。

冒頭、西本会長より同志会ベビーショウや、スポーツ大会などの活動報告後、全日本ホルスタイン共進会に向けて活動を充実させたいとの挨拶がありました。続いて、らくのうマザーズ常務の小

池泰隆氏、九州農政局生産部畜産課畜産経済部係長の井原奈津子氏および熊本県農林水産部生産経営局畜産課審議員の下西儀政氏より来賓挨拶を賜りました。

総会では、金子紀之氏（JA菊池）を議長に選任し、令和6年度事業報告及び収支決算承認の件、令和7年度事業計画及び収支予算（案）承認の件、令和7年度会費及び徴収方法（案）決定の件、役員選任の件（案）の4議案について審議され、いずれも原案通り承認されました。また、新役員につきましては、右表の通りです。

総会終了後には、ストレートマンキャトルケアサービス代表の高橋直人氏を講師に迎え「共進会に求められる主眼の変化について」と題し、この秋に開催される全日本ホルスタイン共進会の出品対策についてご講演いただき、出席者は熱心に聞き入っていました。

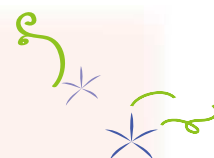
また、カウオブザイヤー、熊本県総合指数、生涯生産乳量、高能力牛群農家、審査成績優秀農家、高能力牛、体型審査好体型牛の表彰があり、令和6年度カウオブザイヤーは、林田敏之氏（球磨酪農協）所有のスタークバーディー B モントレラ ET号、準カウオブザイヤーは、松島太一氏（熊本酪農協）所有のキーエピソードクラッシュヤブル号が選ばれました。



講演会風景

役職	氏名	所属
会 長	松岡 明彦	JA菊池（旭志）
副 会 長	長塩 昌也	JA菊池（七城）
副 会 長	奥村 透	火の国酪農協
改良局長	竹内 太輔	JA菊池（泗水）
会 計	高木 大輔	玉名酪農協
理 事	大王 隆幸	球磨酪農協
理 事	坂本 龍一	熊本乳牛農協
理 事	坂本 祥一	JA熊本市
理 事	宇藤 貴夫	大阿蘇酪農協
理 事	富田 洋介	鹿本酪農協
理 事	本田 裕樹	JA菊池（旭志）
代表監事	松島 太一	熊本酪農協
監 事	椎葉晃一郎	球磨酪農協

COLUMN — コラム —

「酪農の今と未来をつなぐ」
乳牛共進会に期待すること

8月も中旬を過ぎ、暦の上では二十四節気の「立秋」となりました。暦の上では秋となりますが、日々の作業は順調に進んでいますか？まだまだ暑い日が続きますので、皆様におかれましては、体調に十分留意されてください。

昨年の10月号以来の執筆となりますが、4月の人事異動で生産本部長を拝命しました村上です。日頃より生産本部の事業推進にご理解とご協力をいただいておりますことに、この場をお借りし厚くお礼申し上げます。

さて、2025年は「乳牛の美人コンテスト」や「乳牛のオリンピック」と称えられる全日本ホルスタイン共進会（全共）が10年ぶりに北海道で開催されます。前大会（第15回大会）は、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され中止となりました。

その栄えある舞台への第一歩となる熊本県予選会でもある第44回熊本県乳牛共進会が9月20日（土）搬入・測尺、9月21日（日）審査の日程で、熊本県家畜市場で開催致します。

長年にわたり、本共進会は熊本の酪農業の発展に貢献し、乳牛改良技術の向上と情報交換の場として重要な役割を担ってまいりました。この県予選会は、全国の舞台で輝く出品牛を選出するだけでなく、県内の酪農技術の現状を確認し、さらなる高みを目指すための貴重な機会でもあります。

さて、近年、酪農業界を取り巻く環境は、大きく変化しています。特に、乳価改定が8月に行われますが、それに伴う乳製品価格値上げによる消費者の牛乳・乳製品離れへの懸念は、酪農家の皆

様にとって大きな不安

材料となっていること

と思います。このよう

な状況だからこそ、消費者に酪農の現状や牛乳・乳製品の価値を正しく理解していただくため、酪農に対する理解醸成が、これまで以上に重要な役割を果たすと強く感じています。

乳牛共進会は、単に優れた牛を選ぶ場にとどまることなく、出品された素晴らしい乳牛達を通じて、酪農の魅力や、日々のたゆまぬ努力によって安全で高品質な生乳が生産されていることを広く発信する機会となるよう、また参加される酪農家の皆様のこれまでの努力が存分に発揮され、公正かつ円滑な審査が行われるよう、事務局としても準備を進めてまいります。

また、今年の梅雨明けが気象庁の観測史上最も早い6月27日であったことに加え、昨年の猛暑の影響による繁殖のズレから乾乳牛が一気に増え（960頭、前年+390頭）、7月に入ってから生乳生産量は、前年比93%を切る日もあり、7月中旬を97.2%で折り返すなど、全国的にも生乳が逼迫する状況となっています。

まずは、牛たちを倒さないよう暑熱対策の徹底と、トウモロコシの収穫・作付けなど炎天下での作業が続きますので、無理をせずご自愛下さい。

最後に、乳牛共進会を通じて、改めて乳牛の持つ可能性と、熊本の酪農の未来への希望を共有し、この困難な時代を乗り越え、明るい酪農の未来を築いていきましょう。

らくのうマザーズ
生産本部長
村上 聡

夏バテと乳房炎

技術課 塩手 文也

夏は様々な病気が増えてきます。その中で今回は、夏バテと乳房炎についてお話したいと思います。

乳房炎を発症するのは夏が多いと考える方が多いと思います。実際に北海道では8月がピークであると報告されています。しかしながら、熊本の場合は夏ではなく、秋口に発生しやすく、本会に依頼のあった令和6年度の検査数では、春先から徐々に増加し、10月にピークを迎えています。(図1)

図1. 令和6年度 細菌検査数



牛は気温が上昇すると、神経・内分泌による調節、脱毛などの形態的な調節で体温を一定に維持するしくみがあります。牛の体温は、高温環境下では、皮膚や各器官のセンサーが高温の情報を受け取ると発汗や呼吸数が増え、熱放散が活発化します。また、内分泌では成長ホルモンなどの濃度低下、インスリン分泌の増加などが起こり、熱生産を抑制する方向に働きます。これらの反応は乾物摂取量や乳生産も減少させます。

暑熱期に、高い環境温度・湿度、換気不足および給水不足などが複合的に発生すると体温調整がうまくできなくなり、熱射病などが起こります。それにより先ほど述べた体温の恒常性が維持できなくなり、採食量が減ってしまい体ではエネルギー不足の状態になりますが、頑張って乳を出そうとするので、さらに体に負担がかかってしまいます。気温が落ち着いてくる9月以降も湿度が高い状態が続きますので牛床環境も悪くなります。それに伴い、牛床などにいる大腸菌、連鎖球菌、表皮ブドウ球菌などの環境性乳房炎原因菌が増加します。暑熱の影響から免疫力も低下しているため、乳房炎が発生しやすくなります。本会の検査でも同様の検査結果がでており、他の季節と比べて8～10月は連鎖球菌、大腸菌群、表皮ブドウ球菌すべての割合が増えており、伝染性乳房炎原因菌の1つである黄色ブドウ球菌は年間を通して割合は変わりませんでした。(図2)(図3)

図 2. 令和 6 年度 細菌検査結果

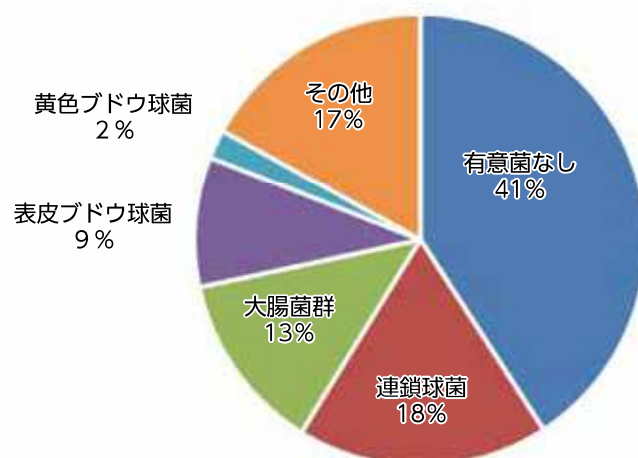
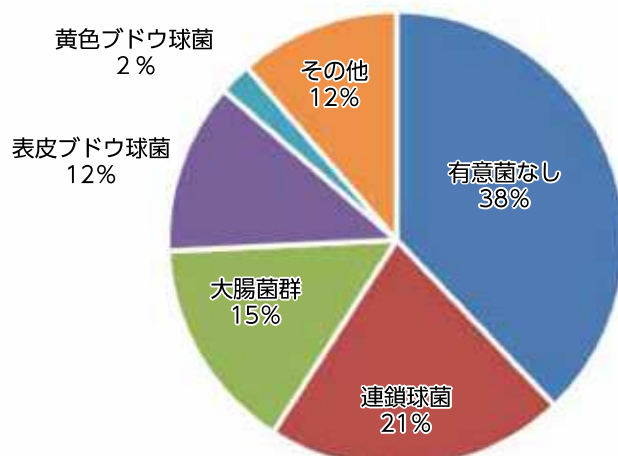


図 3. 令和 6 年度 細菌検査結果
(8月～10月)



これから乳房炎が多くなる時期なので発生を減らすためにも、牛床は水気が残らないようこまめに除糞を行い、常に清潔な状態に保つように心がけて下さい。また、搾乳方法ももう一度確かめてみる事が大事です。前搾りの際に乳汁に異常がないか確認し、乳頭の側面や乳頭口の清拭を丁寧に行い、ライナースリップ防止の観点から乳頭に負担をかけないようにミルカーを装着し、ミルカー離脱後はディッピング剤をしっかり乳頭へ付けましょう。

秋になると、体が暑さに慣れ気温も下がってくるので、代謝は活発になりエネルギーの要求量は増えていきます。増加した呼吸数や飲水量は気温の低下とともに元の水準に戻りますが、夏の体温調整の影響でルーメンpHの低下とルーメン微生物活性の低下が起きているため、すぐには元の採食量に戻りません。夏の疲労と季節の変わり目による不安定な気候が相まって事故や分娩後の乳房炎などの病気も増えてきます。夏バテと聞くと夏の間に起こるとイメージしがちですが、牛にとっての夏バテは秋に起こることが多いのです。

夏バテ対策としては、ヒートストレスを減らす飼養管理です。暑熱時には体温が40度を超えるようになる場合があるので、①牛体に散水をして、さらにファン等で送風、②毛刈りによる体熱放散促進をすることで呼吸数を低下させ、体熱生産を抑えるようにします。飼養管理では、水槽を常に清潔に保ち、きれいな水を十分に飲水できるようにしましょう。採食量が増えないからといって単に濃厚飼料を増給するとアシドーシスになりますので、消化性の良い繊維、良質なタンパク質をバランスよく給与し、免疫力増進作用のあるビタミンA、Eを増給してあげることが大切です。また塩やカルシウムなどのミネラルをしっかり給与し、ルーメンの発酵状態を良く保つ事も大切です。夏から秋にかけての牛の管理に気を付けて病気にさせないようにしましょう。

R 7 年度第 2 回自給飼料生産にかかる研修会

令和 7 年 7 月 23 日（水）に農業研究センターにおいて、R 7 年度第 2 回自給飼料生産にかかる研修会が開催されました。

まず室内研修では、農業研究センターの津田氏よりイタリアンライグラス展示ほ場の生育状況について「イタリアンライグラスの生育は、冬季の気温が平年より低くなったため、草丈の伸びが緩慢となり、生育に遅れが生じた。また、過去 5 ヶ年の平均データと比較して、収穫時の草丈は低かったが、乾物収量は出穂期が遅れたことにより、生育期間が長くなったため、108 ～ 129%の増収となった」との説明がされました。続いて、らくのうマザーズ指導部増田部長より、令和 7 年度春播きトウモロコシの概要と生育状況について「昨年の状況と比較すると、播種後の 4 月～5 月上旬までは最低気温が低かったため、生育は遅れていたが、6 月の梅雨明け後、気温の上昇とともにトウモロコシの生育も急激に進み、草高は昨年並みの状況となっている。また、6 月下旬以降、急激に生長したことによって、徒長気味になっており、着雌穂高が昨年より高くなっている。」との説明がされました。

その後、トウモロコシ展示ほ場に場所を移し、品種ごとに特性の観察が実施され、参加者同士で意見を交換を交わしながら密に交流をされている姿が見受けられました。なお、春播きトウモロコシ収穫後は、夏播きトウモロコシの品種展示が行われる予定です。



講演会風景



現地検討会風景

展示ほ場の概要と直近の状況

- 品種数 26 品種(RM110～RM128)
- 播種日 4月3日
- 栽植本数 6667本/10a(条間75cm×株間20cm)
- 施肥等 10a当たり堆肥 3t N:11kg P:11kg K:11kg
- 雑草防除 ゲザノンゴールド 200ml/10a(散布日:4月4日)
ワンホープ乳剤 150ml/10a(散布日:5月12日)

■ 生育状況(7月17日時点)

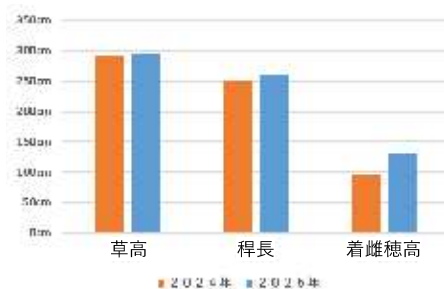
- ・平均草高: 294cm
- ・平均稈長: 258cm
- ・平均着雌穂高: 131cm

■ 糸糸抽出期

- ・平均日: 6月20日
- ※R6年度の平均日は6月17日



前年度との生育比較 (共通20品種の平均草高・稈長・着雌穂高)



※播種日: 2024年4月1日 2025年4月3日
※調査日: 2024年7月16日 2025年7月17日

令和7年度 第2回酪農後継者育成塾の開催

生産本部 経営支援課

去る令和7年7月11日（金）に第2回酪農後継者育成塾を開催し、33名が受講しました。

今回の講演では、【～夏を制する者は酪農を制す～暑熱対策で乳生産をキープしよう】と題し、全国酪農業協同組合連合会大阪支所の永井秀樹顧問よりご講演いただきました。



永井顧問

まず2024年度の熊本県の気温が示され、今年は昨年以上に暑くなり夏が長引く可能性もあるとして、講演の中では、実際の例を示しながら様々な暑熱対策が紹介されました。

①栄養不足を改善する

夏の暑い時期は食欲が落ちるものなので、飼料給与からのアプローチが必要とのことでした。

- ・飼料摂取量をキープする→嗜好性の良い飼料を（特に粗飼料）を調達する。細かく切断するのも良い！（長さ3～5cmあれば物理性はOK）
- ・日内、日々の変動を最小化する→“どか食い”（固め食い）を軽減する。（メニューを変更するときは、バランスを崩さない）
- ・給与順の見直し→粗飼料を残さず食べさせる。（選び食いをさせない）粗飼料を食べてから配合、濃厚飼料の給与
- ・補助的飼料を検討する→重曹・ビタミン・脂肪酸など
- ・牛が飼料を食べている環境の見直し→牛が飼料を食べている姿勢をチェック！（マセン棒の高さ・位置）
牛の届かないエサはエサではない！
- ・意外と見落としがち... →飼槽は明るく！
牛は被食者なので暗い所に行くのが嫌い。

②牛を冷やす（助ける）

施設の暑熱対策について実例をもとに紹介されました。

- ・外からの熱の進入を防ぐ→屋根や壁、牛舎出入口のコンクリートからの輻射熱を防ぎ室内温度を上げない。

○屋根へのスプリンクラー（ホームセンターで材料を用意すると低コストで設置可能！）

○屋根、壁への専用塗料の塗布（二重屋根や断熱材入りの資材の検討も）

★ 始めやすい！ 牛舎出入口に石灰をまくと消毒効果と同時に、輻射熱防止にもなるようだ！

○遮熱シートや植物を活用した日陰対策！

※植物の活用はサシバエ等の休息地となる可能性があるため注意

・牛の熱放散を助ける→送風と換気で熱放散！（少なくとも常時2 m/秒以上の風を牛体に当てる。）

※換気扇の機能を回復させるために羽の掃除！

・牛を冷やす→細霧ミストや牛体への散水活用。

★ 細霧も散水も気化熱を利用して気温を下げる。→どちらも送風が大事！湿度を上げてしまうと牛は不快だけでストレスの原因になる可能性も...

★ 乾乳牛への暑熱対策も行うこと！→乾乳期の暑熱ストレスは、子々孫々まで影響するという研究データもあるとのこと。

といった内容の研修会でした。参加者からは、『換気扇の掃除の大事さを知った』、『屋根に塗料を塗布してみたい』、『乾乳期の暑熱対策を見直したい』、『牧草の長さを調整してみたい』、『石灰振りから始めたいと思う』と言った声をいただきました。



講習の様子

次回は、11月を予定しております。ご興味のある方・お問い合わせは担当者までご連絡ください。
（経営支援課 096-388-3516 担当：井上）

理解醸成活動 in 阿蘇ミルク牧場！

主催：熊本県酪農青壮年部女性部協議会

梅雨も明けた7月6日（日）、阿蘇ミルク牧場で一般生活者を対象に牛乳や酪農への理解を深めてもらうための理解醸成活動を熊本県酪農青壮年部女性部協議会主催で実施しました。

今回は、酪農楽しく学ぶツアーを2回開催し、約80名の方に参加していただきました。まず、役員の方から酪農について説明いただき、その後「酪農に関する」クイズを出題し、参加者の方々は、積極的に手を挙げて、答えていました。正解者には景品のプレゼントもあり大いに盛り上がっていました。また、バターづくり体験では、生クリームの入ったボトルを一所懸命楽しそうに振る姿が見受けられました。

その他にも牛乳の無料試飲や模擬牛・搾乳牛による搾乳体験など多くの一般生活者の方々に立ち寄っていただきました。老若男女問わず、興味津々で酪農について質問され、酪農家と交流を深めていただくことができた1日となりました。

今回の理解醸成活動で参加いただいた一般生活者の方から「バターがおいしかった。」や「酪農のことを知れてよかった。ありがとう」などのやりがいを感じる事ができる言葉をかけていただき開催してよかったと実感しました。

今回の活動を糧に、今後も一般生活者との交流を深めていけるような理解醸成活動を行っていきたいと思います！



役員説明



バターづくり説明



無料試飲



模擬牛体験



バターづくり



搾乳体験



教室風景